

平成25年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	愛媛県	市町村類型	II-O		指定団体等の指定状況		区分		平成25年度(千円)	平成24年度(千円)	区分		平成25年度(千円・%)	平成24年度(千円・%)	
					財政健全化等	×	歳入総額	40,801,894	40,933,105	実質収支比率	6.4	4.8			
市町村名	四国中央市	地方交付税種地	1-3	財源超過	×	歳入総額	39,022,482	39,607,877	経常収支比率	82.7	85.5	(91.0)	(92.0)		
				首都	×	歳入歳出差引	1,779,412	1,325,228	(※1)						
				近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	285,733	198,784	標準財政規模	23,461,091	23,292,038				
				中部	×	実質収支	1,493,679	1,126,444	財政力指数	0.81	0.81				
人口	22年国調(人)	90,187	産業構造(※5)		過疎	○	単年度収支	367,235	-383,958	公債費負担比率	18.6	18.9			
	17年国調(人)	92,854			山振	○	積立金	1,256,984	1,600,659	健全化判断比率					
	増減率(%)	-2.9			低開発	×	繰上償還金	-	-	実質赤字比率	-	-			
住民基本台帳人口(※6)	26.01.01(人)	91,671	第1次	17年国調	2,494	低開発	×	積立金取崩し額	-	-	連結実質赤字比率	-	-		
	うち日本人(人)	91,105		1,975	4.8	5.5	指数表選定	○	実質単年度収支	1,624,219	1,216,701	実質公債費比率	13.2	13.8	
	25.03.31(人)	92,130	第2次	16,447	18,386	基準財政収入額	12,336,716	12,754,026	資金不足比率(※4)						
	うち日本人(人)	91,538		39.8	40.4	基準財政需要額	15,486,966	15,666,417							
	増減率(%)	-0.5	第3次	22,922	24,114	標準税収入額等	16,036,058	16,593,212	経常経費充当一般財源等	19,851,117	19,921,412	将来負担比率	136.8	150.7	
	うち日本人(%)	-0.5		55.4	52.9	歳入一般財源等	27,009,571	26,668,717							
面積(km ²)	420.57														
人口密度(人/km ²)	214														
世帯数(世帯)	34,951														
職員の状況															
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	51,300,251	48,334,742					
	市区町村長	1	9,500	一般職員	759	2,489,520	3,280	うち公的資金	31,264,308	29,604,540					
	副市区町村長	2	7,000	うち消防職員	122	398,940	3,270	債務負担行為額(支出予定額)	4,190,785	2,235,651					
	教育長	1	6,170	うち技能労務職員	5	15,545	3,109	収益事業収入	-	-					
	議会議長	1	4,540	教育公務員	30	95,250	3,175	土地開発基金現在高	200,000	200,000					
	議会副議長	1	3,740	臨時職員	-	-	-	積立金現在高	6,552,168	5,295,184					
	議会議員	24	3,410	合計	789	2,584,770	3,276	減債基金	324,628	324,483					
				ラスパイレース指数			98.3	その他特定目的基金	4,479,767	2,850,736					
	一般会計等の一覧														
	項番	会計名	事業会計の一覧	項番	会計名	公営企業(法適)の一覧	項番	会計名	公営企業(法非適)の一覧	項番	会計名	関係する一部事務組合等一覧	組合等名	地方公社・第三セクター等一覧	団体名
(1)	一般会計	(5)	国民健康保険事業特別会計	(12)	水道事業会計	(15)	簡易水道事業特別会計	(21)	愛媛県市町総合事務組合(退職手当事業分)	(30)	株式会社やまびこ				
(2)	住宅新築資金等貸付事業特別会計	(6)	国民健康保険診療所事業特別会計	(13)	簡易水道事業会計	(16)	港湾上屋事業特別会計	(22)	愛媛県市町総合事務組合(消防補償事業分)	(31)	公益財団法人四国中央市体育協会				
(3)	公共用地先行取得事業特別会計	(7)	介護保険事業特別会計	(14)	工業用水道事業会計	(17)	下水道事業特別会計	(23)	愛媛県市町総合事務組合(交通災害事業分)	(32)	株式会社四国中央テレビ				
(4)	福祉バス事業特別会計	(8)	駐車場事業特別会計	(9)	介護サービス事業特別会計	(18)	西部臨海土地造成事業特別会計	(24)	愛媛県市町総合事務組合(自治会館事業分)	(33)	株式会社四国中央市総合サービスセンター				
		(10)	介護予防支援事業特別会計	(19)	金子地区臨海土地造成事業特別会計	(19)	寒川東部臨海土地造成事業特別会計	(25)	愛媛県市町総合事務組合(議員公務災害事業分)						
		(11)	後期高齢者医療保険事業特別会計	(20)		(20)		(26)	愛媛県市町総合事務組合(共通経費分)						
								(27)	愛媛県市町総合事務組合(共通通費分)						
								(28)	愛媛県市町総合事務組合(共通通費分)						
								(29)	愛媛県市町総合事務組合(共通通費分)						

(注釈) ※1：経常収支比率の()内の数値は、「歳取補填債(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2：各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3：地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4：資金不足比率には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5：産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、平成22年国調は分類不能の産業を除き、平成17年国調は分類不能の産業を含んでいる。
 ※6：住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度の住民基本台帳人口については、平成26年1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載している。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位:千円・%)				地方税の状況(単位:千円・%)			
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比
地方税	14,938,618	36.6	14,938,618	68.5	普通税	14,937,723	100.0
地方譲与税	341,844	0.8	341,844	1.6	法定普通税	14,937,723	100.0
利子割交付金	41,033	0.1	41,033	0.2	市町村民税	5,511,753	36.9
配当割交付金	44,921	0.1	44,921	0.2	個人均等割	132,134	0.9
株式等譲渡所得割交付金	71,184	0.2	71,184	0.3	所得割	3,966,877	26.6
地方消費税交付金	847,186	2.1	847,186	3.9	法人均等割	238,188	1.6
ゴルフ場利用税交付金	15,603	0.0	15,603	0.1	法人税割	1,174,554	7.9
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	固定資産税	8,524,123	57.1
自動車取得税交付金	70,294	0.2	70,294	0.3	うち純固定資産税	8,418,041	56.4
軽油引取税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	224,960	1.5
地方特例交付金	50,918	0.1	50,918	0.2	市町村たばこ税	676,887	4.5
地方交付税	6,409,631	15.7	5,229,395	24.0	鉱産税	-	-
普通交付税	5,229,395	12.8	5,229,395	24.0	特別土地保有税	-	-
特別交付税	1,180,235	2.9	-	-	法定外普通税	-	-
震災復興特別交付税	1	0.0	-	-	目的税	895	0.0
(一般財源計)	22,831,232	56.0	21,650,996	99.3	法定目的税	895	0.0
交通安全対策特別交付金	14,353	0.0	14,353	0.1	入湯税	895	0.0
分担金・負担金	510,766	1.3	-	-	事業所税	-	-
使用料	791,221	1.9	86,067	0.4	都市計画税	-	-
手数料	136,946	0.3	23	0.0	水利地益税等	-	-
国庫支出金	4,209,355	10.3	-	-	法定外目的税	-	-
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-	旧法による税	-	-
都道府県支出金	2,205,669	5.4	-	-	合計	14,938,618	100.0
財産収入	49,664	0.1	11,322	0.1			
寄附金	53,672	0.1	-	-			
繰入金	511,459	1.3	-	-			
繰越金	1,325,228	3.2	-	-			
諸収入	646,329	1.6	48,810	0.2			
地方債	7,516,000	18.4	-	-			
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-			
うち臨時財政対策債	2,195,500	5.4	-	-			
歳入合計	40,801,894	100.0	21,811,571	100.0			

区分	平成25年度	平成24年度
徴収率(%)	98.7	98.7
現・計	95.3	95.2
市町村民税	98.7	95.1
純固定資産税	98.6	95.1

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	4,762,253	実質収支	405,997
下水道	712,289	再差引収支	276,974
上水道	412,479	加入世帯数(世帯)	12,680
介護サービス	207,471	被保険者数(人)	20,867
工業用水道	200,000	被保険者	95
国民健康保険	765,406	1人当り	103
その他	2,464,608	保険税(料)収入額	341
		国庫支出金	
		保険給付費	

(注釈)
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳出の状況(単位:千円・%)					
目的別歳出の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	253,312	0.6	-	253,312	
総務費	6,668,510	17.1	384,997	4,582,516	
民生費	12,171,546	31.2	390,723	6,660,963	
衛生費	2,753,190	7.1	456,422	2,201,505	
労働費	95,667	0.2	-	1,046	
農林水産業費	499,212	1.3	150,772	433,710	
商工費	765,726	2.0	35,247	453,120	
土木費	3,485,644	8.9	2,212,993	1,505,542	
消防費	2,927,752	7.5	1,749,167	1,281,505	
教育費	4,081,533	10.5	1,665,415	2,784,543	
災害復旧費	107,827	0.3	-	50,591	
公債費	5,212,563	13.4	-	5,021,806	
諸支出費	-	-	-	-	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
歳出合計	39,022,482	100.0	7,045,736	25,230,159	

性別別歳出の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	18,196,111	46.6	13,058,424	12,698,095	52.9
人件費	6,595,930	16.9	5,794,625	5,453,433	22.7
うち職員給	4,207,774	10.8	3,473,214	-	-
扶助費	6,387,618	16.4	2,241,993	2,222,856	9.3
公債費	5,212,563	13.4	5,021,806	5,021,806	20.9
元利償還金	5,212,220	13.4	5,021,463	5,021,463	20.9
うち元金	4,550,491	11.7	4,382,492	4,382,492	18.3
うち利子	661,729	1.7	638,971	638,971	2.7
一時借入金利子	343	0.0	343	343	0.0
その他の経費	13,672,808	35.0	10,421,617	7,153,022	29.8
物件費	4,311,229	11.0	3,666,031	3,394,509	14.1
維持補修費	255,854	0.7	147,170	147,170	0.6
補助費等	1,689,386	4.3	1,458,556	612,215	2.6
うち一部事務組合負担金	40,438	0.1	40,438	35,438	0.1
繰入金	4,125,142	10.6	3,699,901	2,999,128	12.5
積立金	3,041,697	7.8	1,449,959	-	-
投資・出資金・貸付金	249,500	0.6	-	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	7,153,563	18.3	1,750,118	-	-
うち人件費	297,111	0.8	259,511	-	-
普通建設事業費	7,045,736	18.1	1,699,527	-	-
うち補助	2,440,787	6.3	253,351	-	-
うち単独	4,316,411	11.1	1,411,138	-	-
災害復旧事業費	107,827	0.3	50,591	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	39,022,482	100.0	25,230,159	-	-

(2) 各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

平成25年度 愛媛県四国中央市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	40,835	39,026	1,809	1,523	480	51,102	
2 住宅新築資金等貸付事業特別会計	10	40	▲ 29	▲ 29	-	10	
3 公共用地先行取得事業特別会計	49	49	-	-	49	188	
4 福祉バス事業特別会計	19	19	0	0	18	-	
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							
296	</						

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	91,671	人(H26.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	91,105	人(H26.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	420.57	km ²	実質公債費比率	13.2	%
歳入総額	40,801,894	千円	将来負担比率	136.8	%
歳出総額	39,022,482	千円	市町村類型	H21 II-O H22 II-O H23 II-O	
実質収支	1,493,679	千円	(年度毎)	H24 II-O H25 II-O	
標準財政規模	23,461,091	千円			
地方債現在高	51,300,251	千円			



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※平成26年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出してない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※類似団体内平均値は、充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体を含めた加重平均であるため、最小値を下回ることがある。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度の住民基本台帳人口については、平成26年1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口を記載している。

財政力

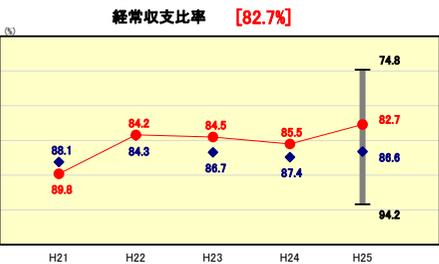
類似団体内順位 13/40 全国平均 0.49 愛媛県平均 0.43



財政力指数の分析欄
 四国中央市は、全国有数の製紙工業都市として、紙加工業などの紙関連企業も多く、市民の大半が何らかの紙関係の仕事に従事しているまさに「紙のまち」である。活発な地場産業に支えられ歳入総額に占める市税の割合が約4割、自主財源の割合が約5割と比較的財政力に恵まれたまこと言える。このことは平成25年度決算で財政力指数が0.81と、類似団体の0.66や愛媛県平均の0.43より高いことからうかがえる。ただ、産業構造が「紙」に特化した単一構造のため、原油高や円安と言った外的要因を受けやすく脆さも併せ持っている。そのため、第二次総合計画に沿った施策を重点的に実施することにより活力のあるまちづくりを展開しつつ、平成30年度の実質公債費比率を1.4%に改善するなどし市政財政基盤の強化に努める。

財政構造の弾力性

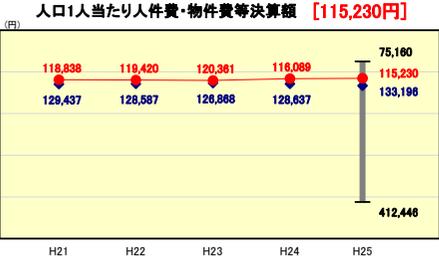
類似団体内順位 5/40 全国平均 90.2 愛媛県平均 85.7



経常収支比率の分析欄
 平成19年度以降大幅な経常的経費の削減をすめたことにより、平成25年度決算で82.7%と過去最高の数値となった。最も数値が悪かった平成18年度決算の96.4%と比較すると大きく改善されてきたことが判る。類似団体の86.6%と比べても高い数値となっているが、合併特例債の元金償還の本格化や、今後さらに扶助費等の増による義務的経費に圧迫され、財政の硬直化が進むことが予想される。今後、選択と集中による経常的経費の削減に努め、平成30年度の経常収支比率83.1%を目標とする。

人件費・物件費等の状況

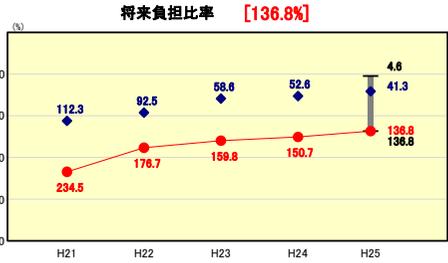
類似団体内順位 16/40 全国平均 116,288 愛媛県平均 115,071



人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 類似団体とほぼ同じ水準である。合併以降、物件費や維持補修費等について削減を重ねてきたことが要因として挙げられるが、適正な市民サービスや施設の管理運営上はこれ以上の削減は困難であるため、施設の統廃合など行政のスリム化により抑制を図る。

将来負担の状況

類似団体内順位 40/40 全国平均 51.0 愛媛県平均 50.9



将来負担比率の分析欄
 平成24年度には三セク債を活用し土地開発公社を解散。財政調整基金も6,552百万円へと積み増しを行った。平成19年度決算においては267.2%であった将来負担比率は、130.4ポイント減少し136.8%となったが、依然として類似団体の41.3%に比べて非常に高いものとなっている。これは臨海土地造成事業や下水道事業の地方債残高が大きく影響しているものであるが、昨年度と比べ1,822百万円減少するなど、着実に減少している。今後も借入額の抑制や地方債残高の更なる低減を図るとともに、平成30年度末基金残高が93億円となるよう積み増しを行い、類似団体並の負担率を目標とする。

公債費負担の状況

類似団体内順位 35/40 全国平均 8.6 愛媛県平均 10.4



実質公債費比率の分析欄
 最も数値が悪かった平成19年度決算における実質公債費比率20.7%から平成25年度13.2%と7.5ポイント減少し確実に改善されてきている。しかしながら類似団体の9.6%に比べて依然高い数値となっている。今後も新市建設計画に基づく大型事業が予定されており、事業実施に際しては一層慎重に行わざるを得ない。継続事業については容易に市債に頼ることなく適正な事業量を執行していくよう努め実質公債費比率の低減を図り、平成30年度における実質公債費比率11.4%を目指す。

定員管理の状況

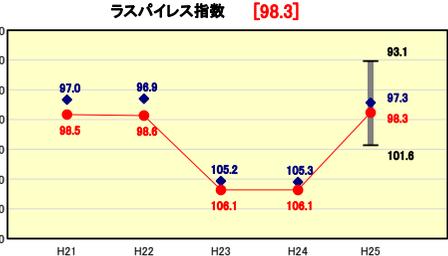
類似団体内順位 30/40 全国平均 8.96 愛媛県平均 7.82



人口千人当たり職員数の分析欄
 合併に伴い一部事務組合職員の身分を新市に引き継いだため、平成16年度は職員数が1,270人と類似団体に比べ約200人超過していた。その後定数適正化計画に沿って人員の削減を進めてきたが、人口千人当たりの職員数は類似団体と比較しても依然高く推移しており、経常収支比率を押し上げ、財政硬直化の要因となっている。施設の統廃合やアウトソーシングによる職員数の削減、人件費総額の削減が重要課題となっている。

給与水準 (国との比較)

類似団体内順位 23/40 全国市平均 98.6 全国町村平均 95.6



ラスパイレス指数の分析欄
 類似団体の97.3に比べ平成25年度98.3と、1.0ポイント上回っている。平成24年人事院勧告を受け、50歳代後半層における給与水準の上昇を抑制するため、昇給・昇格制度の見直しを図ったが、今後も給与表の減額改訂(各級平均2%減)を行うなど、引き続き人件費の抑制に努め給与の適正化を図っていく必要がある。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成25年度

愛媛県四国中央市

経常収支比率の分析

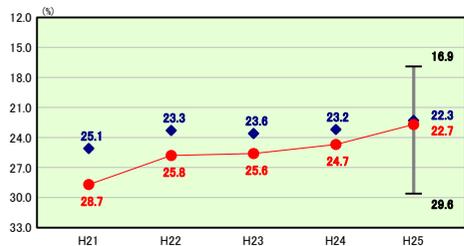
人	口	91,671	人(H26.1.1現在)	実 質 赤 字 比 率	-	%
うち日本人	91,105	人(H26.1.1現在)	連 結 実 質 赤 字 比 率	-	%	
面	積	420.57	km ²	実 質 公 債 費 比 率	13.2	%
歳入総額	40,801,894	千円	得 茶 負 担 比 率	136.8	%	
歳出総額	39,022,482	千円	市 町 村 類 型	H21 II-O H22 II-O H23 II-O		
実 質 収 支	1,493,679	千円	(年 度 毎)	H24 II-O H25 II-O		
標準財政規模	23,461,091	千円				



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度の住民基本台帳人口については、平成26年1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載している。

人件費

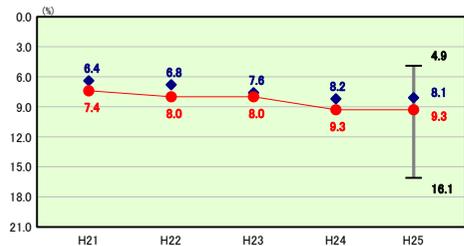
類似団体内順位 22/40 全国平均 23.7 愛媛県平均 22.4



人件費の分析欄
 人件費については、定員適正化計画により職員数が減少していることから前年度比で2.0ポイント減少し、全国平均を下回り類似団体平均と同程度の数値となった。今後は施設の統廃合やアウトソーシング、事務事業評価等による事務量の把握と精査による効率的な人員配置を行いながら、給与水準の適正化(給与表の減額改訂。平均2%減)に努め人件費の抑制を図る。

扶助費

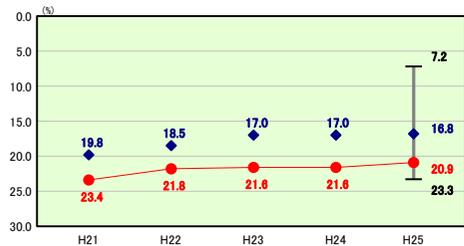
類似団体内順位 32/40 全国平均 11.3 愛媛県平均 9.9



扶助費の分析欄
 前年度と同じ数値を維持しているが、類似団体平均値8.1%と比較すると1.2ポイント下回る。子ども医療費の完全無償化などにより、今後も社会保障関係の経費が増加していくことが予想されるため、財政バランスを崩すことなく抑制に努める。

公債費

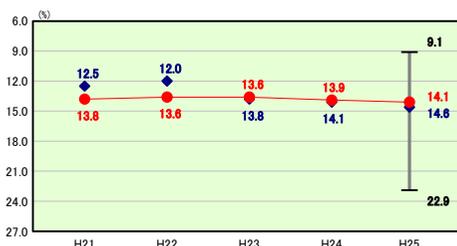
類似団体内順位 38/40 全国平均 18.6 愛媛県平均 18.4



公債費の分析欄
 公債費については20.9%とやや改善されたが、類似団体の16.8%に比べて依然高い状況にある。今後も新庁舎建設をはじめ新市建設計画に基づく大型事業が予定されており、継続事業については容易に市債に頼ることなく適正な事業量を執行していくよう努め、公債費の低減を図る。

物件費

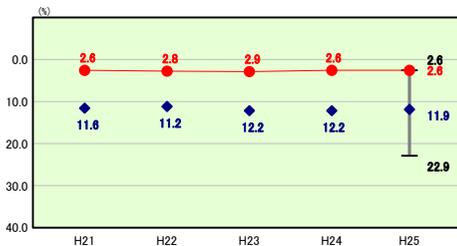
類似団体内順位 20/40 全国平均 13.7 愛媛県平均 13.7



物件費の分析欄
 類似団体比較においては概ね中間に位置しており、横ばいで推移している。合併に伴って公共施設が増えており多額の維持管理費を削減するためにも施設の統廃合を進めることが肝要である。また、今後は人件費抑制のためのアウトソーシングに伴う経費の増加が見込まれることなどから、計画的な財政運営を図る。

補助費等

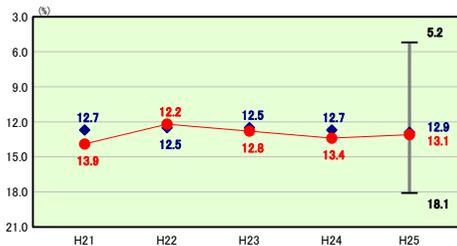
類似団体内順位 1/40 全国平均 10.0 愛媛県平均 7.6



補助費等の分析欄
 類似団体との比較では大きく平均を下回っており、毎年同じ水準で移行している。これは平成16年度に4市町村が合併し、構成していた一部事務組合負担金等、多額の負担金が不要となったことが挙げられる。一方、商工関係の単独補助が類似団体平均値を上回っているが、今後も適正な執行に努める。

その他

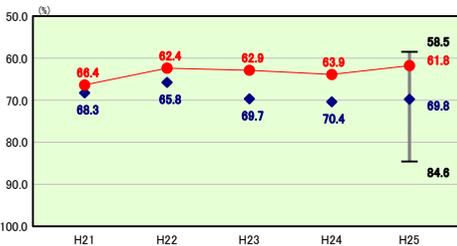
類似団体内順位 20/40 全国平均 12.9 愛媛県平均 13.7



その他の分析欄
 維持補修費が0.6%、繰入金が12.5%の内訳となっている。それぞれ前年度比で維持補修費0.1ポイント減、繰入金が0.2ポイント減となっている。今後、介護保険事業や後期高齢者医療事業特別会計の給付費増や、国民健康保険事業の加入者の高齢化、医療技術の高度化などに伴う医療費増によって国民健康保険事業特別会計の財政悪化も想定しておかなければならないことから、歳入歳出の適正化を図ることにより普通会計の負担増加を抑制する。

公債費以外

類似団体内順位 3/40 全国平均 71.6 愛媛県平均 67.3



公債費以外の分析欄
 平成24年度に比べ2.1ポイント減少し、類似団体平均との比較では8.0ポイントと大きく下回っている。経常収支比率が82.7%であることから公債費が占める割合が非常に高いことが判る。これまで経費削減のため恒常的に削減を行ってきたが、施設の老朽化等に伴い今後は継続的に増加していくことも想定される。人件費など経常経費の削減に努め、現在の水準を維持できるよう努める。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成25年度

愛媛県四国中央市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	6,595,930	71,952	65,478	9.9
賃金(物件費)	503,101	5,488	5,891	▲ 6.8
一部事務組合負担金(補助費等)	5,683	62	8,462	▲ 99.3
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	902	-
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	-	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	414,831	4,525	2,295	97.2
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	297,111	3,241	1,610	101.3
▲退職金	▲ 896,882	▲ 9,784	▲ 7,674	27.5
合計	6,919,774	75,485	76,965	▲ 1.9

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	8.61	7.53	1.08
ラスパイレース指数	98.3	97.3	1.0

(注) 住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度の住民基本台帳人口については、平成26年1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口を記載している。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

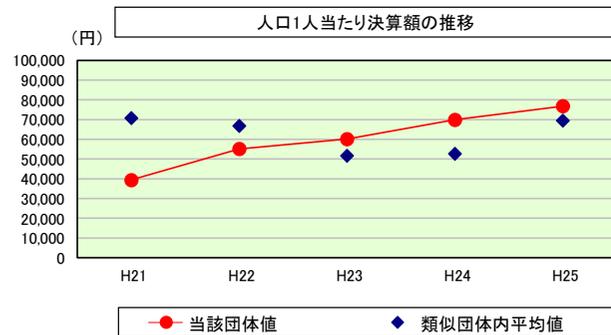


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	5,212,220	56,858	44,941	26.5
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	-	-	79	-
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	1,069,063	11,662	13,887	▲ 16.0
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	-	-	3,159	-
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	136,794	1,492	1,648	▲ 9.5
一時借入金利息 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	343	4	3	33.3
▲特定財源の額	▲ 190,757	▲ 2,081	▲ 4,297	▲ 51.6
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲ 3,701,619	▲ 40,379	▲ 39,944	1.1
合計	2,526,044	27,556	19,475	41.5

※平成26年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

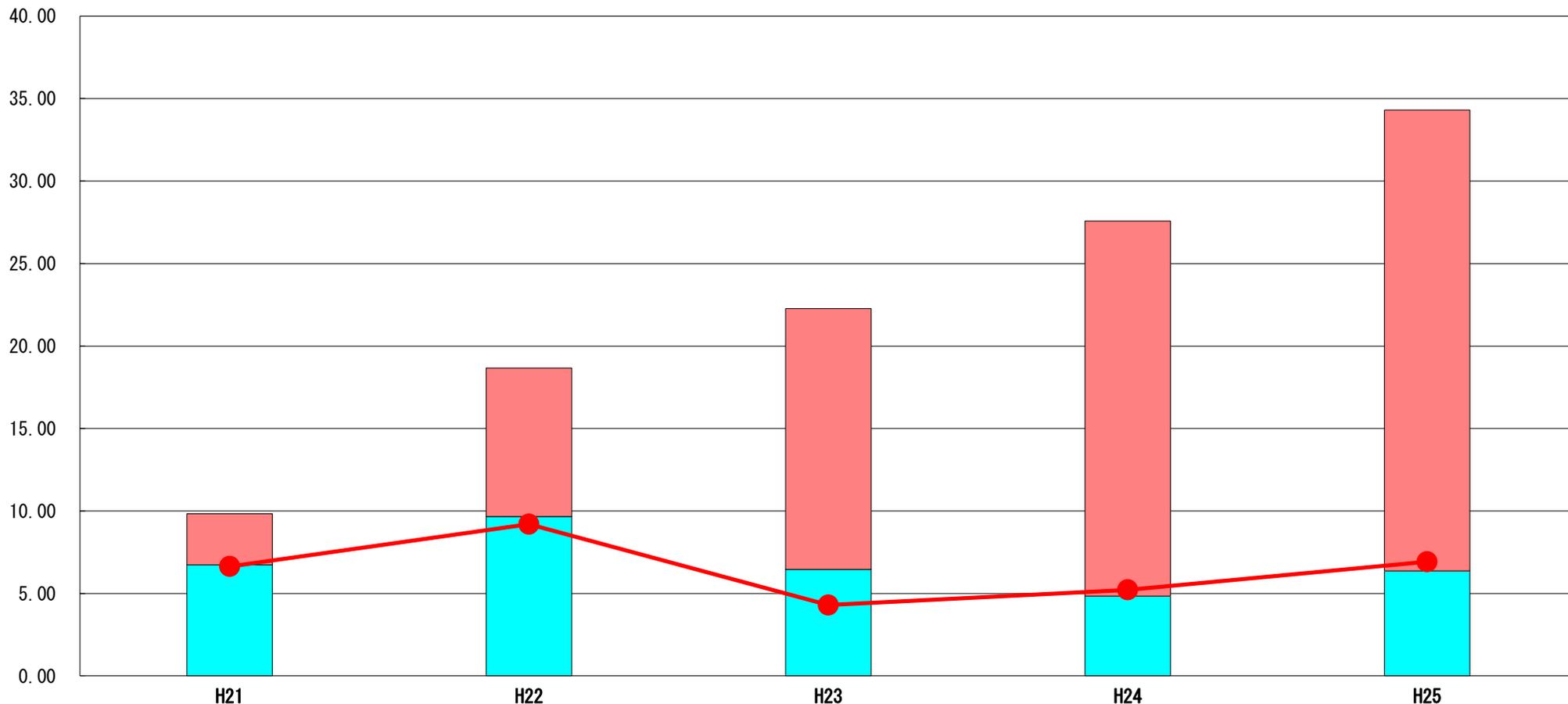
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H21	3,667,722	39,412	33.3	70,789	23.4	9.9
うち単独分	2,466,389	26,503	51.2	40,880	25.2	26.0
H22	5,106,529	55,169	40.0	66,876	▲ 5.5	45.5
うち単独分	2,790,423	30,147	13.7	36,310	▲ 11.2	24.9
H23	5,539,326	60,183	9.1	51,704	▲ 22.7	31.8
うち単独分	2,032,457	22,082	▲ 26.8	26,896	▲ 25.9	▲ 0.9
H24	6,444,399	69,949	16.2	52,678	1.9	14.3
うち単独分	3,293,391	35,747	61.9	30,185	12.2	49.7
H25	7,045,736	76,859	9.9	69,560	32.0	▲ 22.1
うち単独分	4,316,411	47,086	31.7	35,305	17.0	14.7
過去5年間平均	5,560,742	60,314	21.7	62,321	5.8	15.9
うち単独分	2,979,814	32,313	26.3	33,915	3.5	22.8

(5) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

平成25年度

愛媛県四国中央市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H21	H22	H23	H24	H25
 財政調整基金残高		3.09	8.99	15.81	22.73	27.93
 実質収支額		6.74	9.67	6.46	4.84	6.37
 実質単年度収支		6.64	9.20	4.30	5.22	6.92

分析欄

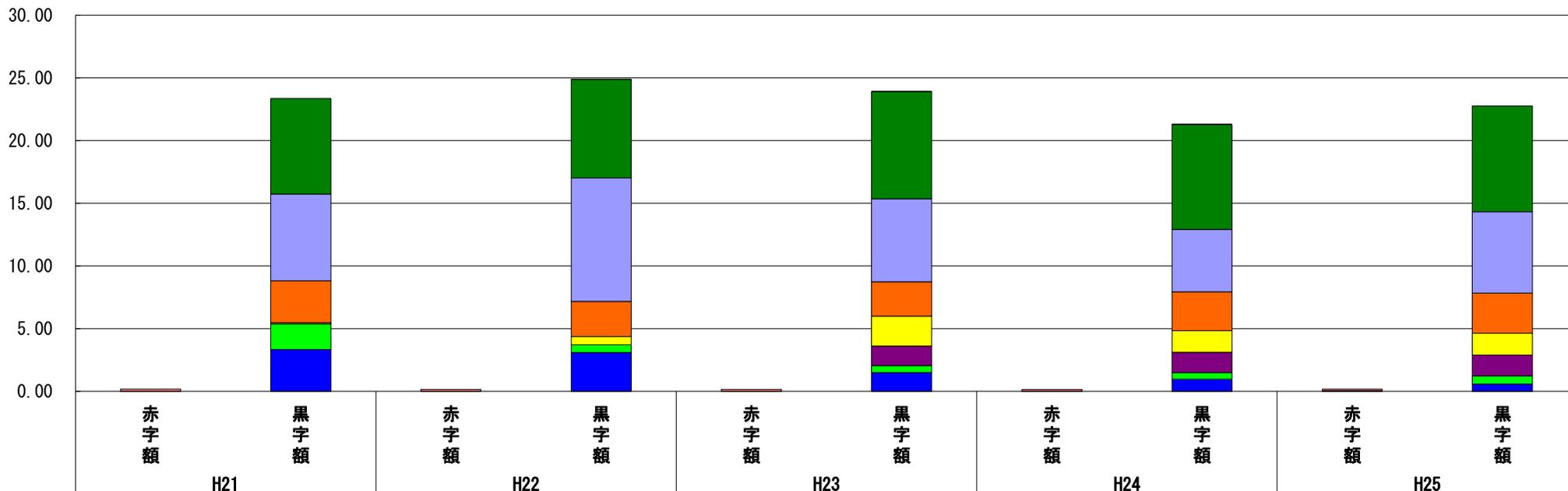
合併に伴う一部事務組合の正規雇用等による人件費の大幅な増加や合併前の大型事業による公債費の増加により平成18年度の経常収支比率は96.4%と硬直した財政状況であった。財政調整基金は平成17年度に420百万円、平成18年度に880百万円を取崩す等、経費削減による財政改革が急務であったため、平成19年度には決算額で約10%を削減、平成20年度以降も引き続き経費削減を図った。平成17年度に策定した定員適正化計画が目標を上回る170名の減を達成し、大幅に職員を削減できたことなどから、平成20年度以降は経常収支比率も徐々に改善され、ここ数年、財政調整基金（平成25年度末現在高6,552百万円）も着実に積み増しが見られている。実質収支についても平成20年度以降は黒字決算が続いており、改善の傾向が見られるが、平成27年度以降の合併算定替の終了に向け、より効果的な財政運営が求められる。

(6) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成25年度

愛媛県四国中央市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H21	H22	H23	H24	H25
住宅新築資金等貸付事業特別会計		▲ 0.18	▲ 0.17	▲ 0.16	▲ 0.14	▲ 0.12
介護サービス事業特別会計		0.00	0.01	0.01	0.01	▲ 0.06
水道事業会計		7.62	7.87	8.55	8.37	8.44
一般会計		6.92	9.84	6.62	4.98	6.49
工業用水道事業会計		3.34	2.79	2.74	3.10	3.20
国民健康保険事業特別会計		0.10	0.66	2.38	1.71	1.73
簡易水道事業会計		-	-	1.55	1.63	1.67
金子地区臨海土地造成事業特別会計		2.04	0.62	0.57	0.51	0.65
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		3.34	3.11	1.50	0.99	0.59

分析欄

金子地区臨海土地造成事業特別会計については、造成事業が終了。起債償還が終了すれば会計を閉鎖する見込み。また、平成19、20年度と赤字となった国民健康保険事業特別会計については、保険料の改定を重ねたことにより平成21年度以降は改善の傾向にある。住宅新築資金等貸付事業特別会計については、これまでの収入未済の積み重ねにより、前年度繰上充用で会計を運営している状況であるが、貸付事業は終了していることから、収入未済額の確保に努めることがもっとも重要な事業となっている。一般会計を含めたその他の会計についても、合併後6年間の経費削減効果もあり合併当初に比べて改善は見られるものの、今後も健全な財政運営が必要である。

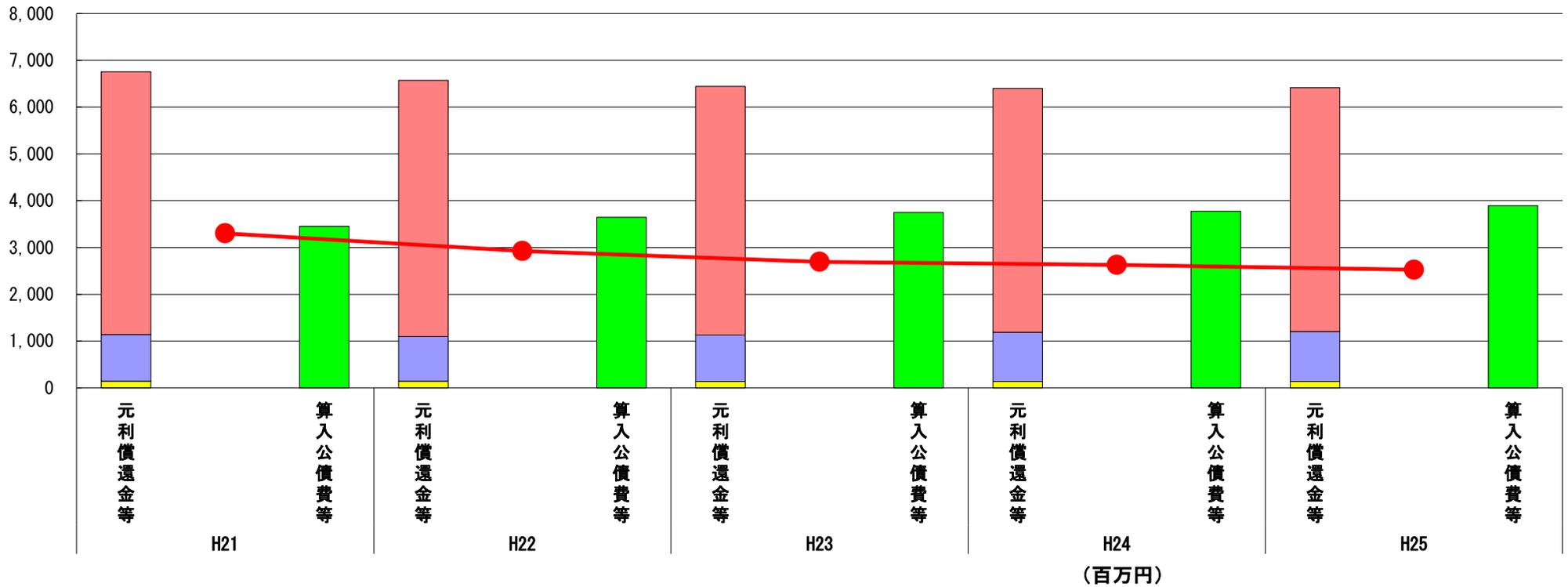
※平成26年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成25年度

愛媛県四国中央市

(百万円)



分子の構造		年度	H21	H22	H23	H24	H25
元利償還金等(A)	元利償還金		5,619	5,476	5,317	5,214	5,212
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		-	-	-	-	-
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		997	953	988	1,050	1,069
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		-	-	-	-	-
	債務負担行為に基づく支出額		140	143	140	138	137
	一時借入金の利子		1	0	0	0	0
算入公債費等(B)	算入公債費等		3,453	3,645	3,750	3,774	3,892
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		3,304	2,927	2,695	2,628	2,526

分析欄

合併前に一部事務組合において実施したごみ処理施設の整備や旧団体で実施した大型事業により地方債の元利償還金が増え続ける状態であったが、平成19年度以降は政府資金の公的免除繰上償還や平成21年度に実施した減債基金による繰上償還、高利率の起債については積極的に借換を行ったこと。また、平成18年から平成24年にかけて実施した公債費負担適正化計画等により公債費の低減を図ったことにより着実に改善されてきている。今後も選択と集中により事業費の抑制を図るとともに、合併特例債の活用により財政運営を安定したものにすることも実質公債費比率の低減(平成30年度1.4%目標)を図っていく必要がある。

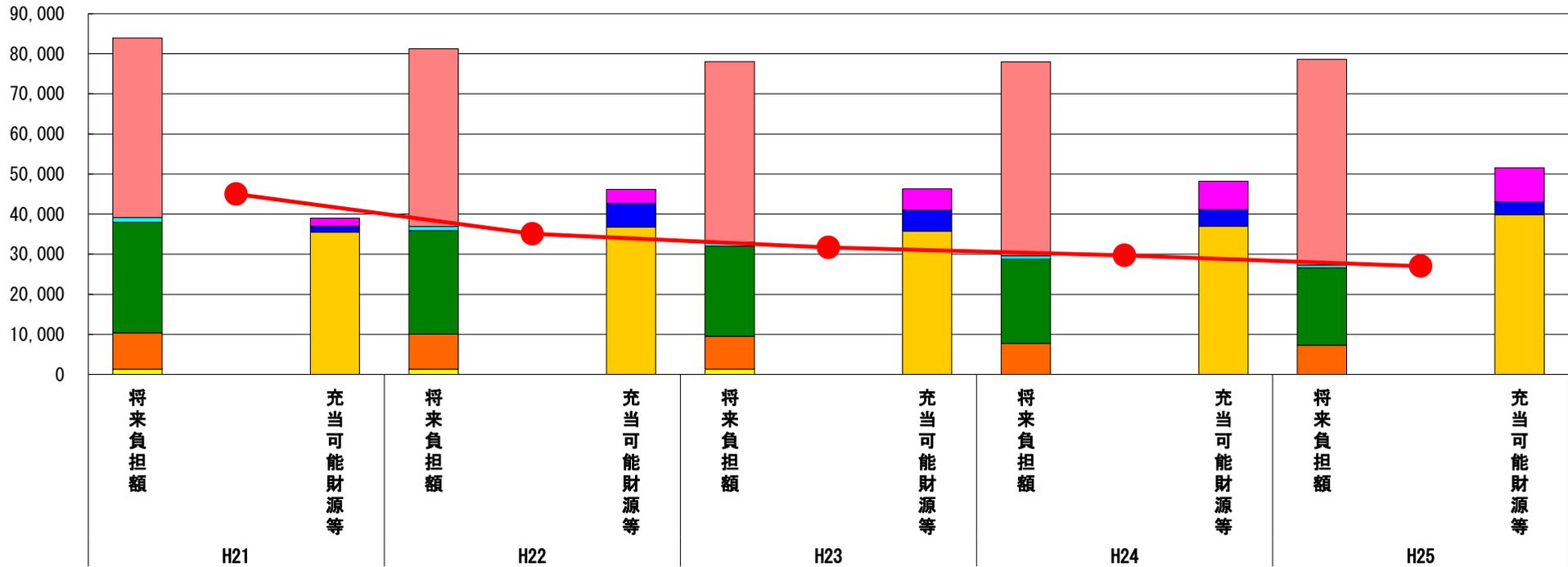
※平成26年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(8) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成25年度

愛媛県四国中央市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H21	H22	H23	H24	H25
将来負担額 (A)	一般会計に係る地方債の現在高		44,788	44,321	45,063	48,335	51,300
	債務負担行為に基づく支出予定額		1,188	1,062	948	814	678
	公営企業債等繰入見込額		27,563	25,816	22,447	21,036	19,339
	組合等負担等見込額		-	-	-	-	-
	退職手当負担見込額		9,070	8,706	8,204	7,748	7,279
	設立法人等の負債額等負担見込額		1,329	1,340	1,349	-	-
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		1,961	3,443	5,345	7,102	8,491
	充当可能特定歳入		1,507	6,004	5,292	4,172	3,249
	基準財政需要額算入見込額		35,473	36,725	35,705	36,961	39,823
(A) - (B)	将来負担比率の分子		44,996	35,073	31,669	29,697	27,033

分析欄

将来負担比率は、平成19年度267.2%から平成25年度136.8%と、年々着実に改善されてきている。しかしながら依然として他市町に比べて非常に高い数値となっている。一般会計地方債残高が高く、また、下水道事業特別会計や臨海土地造成事業特別会計の将来負担額が大きいため将来負担比率の分子を大きくする要因となっている。

平成24年度には土地開発公社を三セク債を活用し解散。財政調整基金も平成20年度末残高493百万円から平成25年度末残高6,552百万円へ積み増しを行った。今後数年、市民文化ホール建設事業や新庁舎建設事業等合併特例事業が一時的に公債費比率を押し上げることが予想されるが、将来負担解消には長期的な視点で財政の硬直化を招かないよう取り組む必要がある。新規事業採択、施設の更新等にあたっては統廃合を含め長期的に判断することが肝要である。事業内容及び経費の精査と最適化により地方債への依存を最小限に抑制するとともに、普交合併算定替え終了が指標の分子・分母双方の悪化要因となることにも留意しつつ、一般財源の確保及び充当可能基金の計画的な積立て(平成30年度93億円目標)に努める。

※平成26年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。